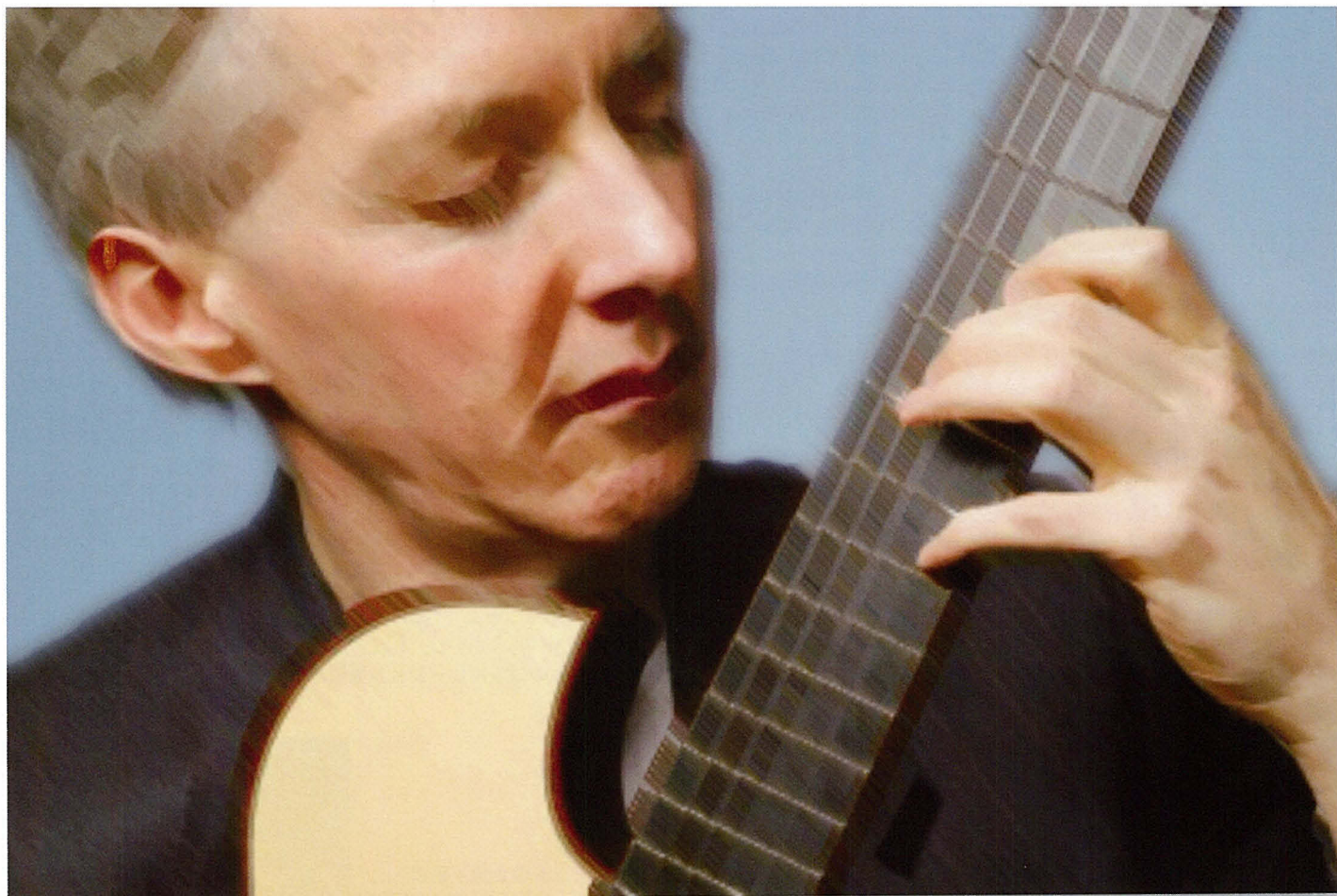


ジャズ・ギターの吟遊詩人

John Stowell Concert in Sendai



ジョン・ストウエル コンサート

2009年11月9日 (月)

18:30 開演 (18:00 開場)

せんだいメディアテーク 1F オープン・スクエア

入場料 (1ドリンク付)

一般 (前売) ¥3,500、(当日) ¥4,000

大学・高校生 ¥2,500 中学生以下 ¥2,000

出演

ジョン・ストウエル (ギター)

榊原 光裕 (ピアノ)

織田 佳子 (ヴォーカル)

外島 正人 (ギター)

後援：朝日新聞社仙台総局、読売新聞社東北総局

TBC 東北放送 **仙台放送** **ミヤギテレビ** **KHB** 東日本放送

主催：ジョン・ストウエル コンサート実行委員会

TEL：090-7568-1748 (中里) E-mail：johnstowellconcert@gmail.com

WEBサイト：http://sites.google.com/site/johnstowellinsendai/

ジョン・ストウェル *John Stowell*

Originality, Guitarist, Poet

研ぎ澄まされたハーモニーで奏でる吟遊詩人



JOHN STOWELL

ジョン・ストウェルは、30年以上のキャリアを持つジャズギタリストである。ストウェルの演奏は、長年の演奏経験と音楽理論に裏付けられた、独自の解釈によるものである。その繊細なハーモニー、コードワーク、そしてインプロヴィゼーションは、他のどのギタリストの演奏とも異なる、オリジナルでユニークなスタイルである。ストウェルのユニークさは、ギターを持ち方にも良く表れている。通常、座ってギターを演奏する場合、ネックを水平に構えるが、ストウェルの場合、ネックを斜め45度に構え、演奏中、ギターのヘッドは常に頭よりも上の高さに位置する。この独特の演奏スタイルは、ストウェルの手の大きさが比較的小さかったことに由来する。ストウェルは、ピアニストが弾くような複雑なコードをギターに応用しようと、練習やライブで試行錯誤しているうちに、複雑なコードが押さえやすいように段々とネックの位置が高くなり、最終的に現在の45度のポジションに収まったのである。見た目よりも、自分の表現したいハーモニーを奏でることを最優先に考える、職人気質のギタリスト、ジョン・ストウェルならではのエピソードである。

現在のジョン・ストウェルの音楽は、過去30年間、自らが追求してきた音楽の集大成とも言えるであろう。ギターから紡ぎ出されるその音楽は、極めて私的に表現される。それは、聴けばすぐにジョン・ストウェルだと分かる音である。ジョン・ストウェルのギターは、世界中のジャズミュージシャンや熱心なリスナーを魅了し続け、今後も更に進化し続けるであろう。

米北東部コネチカット州出身。1970年頃からリンク・チェンバーランド（ギター）、ジョン・ミーガン（ピアノ『ジュリアード音楽院、イェール大学音楽教師』）に師事。数年後、ニューヨークに進出し、グリニッチ・ヴィレッジのジャズクラブにて、その後長きに渡り音楽的なパートナーとなるデヴィッド・フリーゼン（ベース）と初共演する。2人は複数のアルバムを共同制作し、ヨーロッパ、カナダ、アメリカ、オーストラリアをツアーした。1976年、ストウェルは活動拠点をデヴィッド・フリーゼンの住む北西部オレゴン州ポートランドに移す。ポートランドに住む著名なフルート奏者であるポール・ホーンらと共に、アメリカ人ジャズミュージシャンとしては40年ぶりとなる旧ソ連での歴史的なツアーを行う。1983年から現在に至るまで、ストウェルはソロ演奏活動を中心に、コンサートとクリニックのツアーに年間6、7ヶ月を費やす。ツアーはアメリカ西海岸と東海岸を中心に、米中西部から世界中で行われる。過去のツアー・クリニック開催国は、アルゼンチン、イタリア、オーストラリア、オーストリア、スイス、スペイン、ロシア、ドイツ、オランダ、ノルウェー、フィンランド、フランス、メキシコ、リトアニア、ルクセンブルグ、インドネシア、カナダ等、多数に渡る

またこれまでの主な共演者は、ミルト・ジャクソン、ライオネル・ハンプトン、アート・ファーマー、ハーブ・エリス、ビル・ワトラス、マンデル・ロウ、ジョージ・ケープルズ、ビリー・ヒギンズ、ビリー・ハート、リッチー・コール、ポール・ホーン、トム・ハレル、ドン・トンプソン、デーブ・リープマン等。ストウェル独自の世界観を持って、ジャズの名だたるミュージシャンたちとのコラボレーションを重ねている。

榎原 光裕 *Mits Sakakibara*

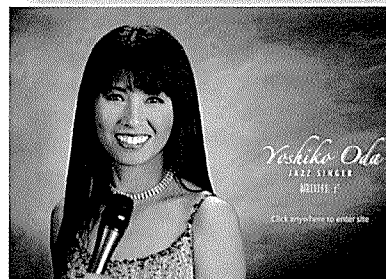
東北大学工学部、パークリー音楽大学卒業。

ミュージカルや映画音楽などの作曲、ピアニストとしての演奏活動のほか、大型プロジェクトの企画・構成・音楽監督などを手がける。主な活動として、JR仙台駅・発車音楽作曲（1989）「定禅寺ストリートジャズ・フェスティバル」の企画・音楽監督（1991-現在）教育の分野では、宮城教育大学講師（1991-現在）などを務める。



織田 佳子 *Yoshiko Oda*

愛知県岡崎市出身。2003年、ジャズ・ヴォーカル音楽と出会い衝撃を受け、以降ジャズ・シンガーとしての道を進むことになる。デアンザ大学でロジャー・レストン、ビリー・バンダーマンといった名だたる指導者のもとヴォーカル・トレーニングを積み、同時にジム・シュナイダー、ロバート・ファリントンにジャズ・ピアノとインプロヴィゼーションの指導も受けた。現在はサン・フランシスコのベイ・エリアに在住、サラトガに自身のスタジオと事務所を構え、近隣のカフェやレストランなどで音楽活動を行っている。



外島 正人 *Matt Toshima*

地元東北大学工学部を卒業後、ソーラー・パネル技術者として、2003年には半導体工業会社 Toshima LLC を立ち上げる。次世代半導体として知られるプラズマCVDを利用したソーラー・パネルを開発、当分野で多くの特許も有する。同時にジャズ・ギタリストとしても活動し、サン・ホセにスタジオ・ピンクハウスを創立、数多くのミュージシャンとの演奏活動のほか、若手ミュージシャンの育成にも尽力し、また、アメリカのミュージシャンを日本にも招聘しコンサートを行うなど、カリフォルニアと日本の音楽の架け橋としての活動に力を入れている。

